

八戸圏域地域公共交通活性化協議会



地域公共交通の課題を広域的に解決するため、令和4年11月に八戸圏域地域公共交通活性化協議会とバス事業者で覚書を締結し、協議会の求めに応じてデータが提供される仕組みを構築。提供されたデータを可視化・分析し、交通計画や路線維持の検討等に活用。

1. 多様な主体の参画

- 八戸圏域地域公共交通活性化協議会には、八戸圏域8市町村、青森県、運輸支局、有識者、交通事業者、道路管理者、交通管理者、商工会議所、DMO、地域住民等が参画（ICカード導入の検討分科会には、JR東日本や小田原機器も加入）。
- 八戸市交通部と岩手県北自動車は、八戸圏域を運行する路線バスに、令和4年に「地域連携ICカード」を利用した**IC乗車サービスを導入**。これを契機に、**Tableau（タブロー）※を活用した分析システムを構築**。※複雑なデータを収集・分析・可視化するソフトウェア
- バスを利用した観光地への移動を促進するため、**地域連携DMO「VISITはちのへ」や商業施設等とも連携**して、八戸エリアの路線バスが乗り放題になる乗車券や商業施設で利用できるクーポンをセットにしたバスパックをデジタルチケットで販売（八戸圏域MaaS）。

2. 創意工夫

- 令和4年11月、八戸圏域地域公共交通活性化協議会・八戸市営バス・岩手県北自動車の**3者で覚書を締結し、協議会の求めに応じてデータが提供される仕組みを構築**。
- 利用実績等のデータを紐づけ、可視化し、路線再編に関するバス事業者との協議やサービス水準（運賃、路線、運行回数等）の検討**のほか、**地域住民への説明**にも活用。
- 従来は利用状況の把握に数ヶ月かかっていたが、**Tableau（タブロー）の活用**により、関係者が揃う会議の場で画面を共有してリアルタイムに確認できるようになり、**協議のスピードや確度が向上**。

3. 自立性・継続性

- 上位計画である**八戸圏域連携中枢都市圏ビジョンと連動**（事業実施に必要な費用を関係市町村が負担）。
- 「モビリティ人材育成事業」補助を活用し、NPOやコンサルタントと連携**して、圏域の自治体職員等を対象にデータ活用方法の勉強会を実施。**データを分析できる人材育成にも注力**。



モビリティ人材育成事業

圏域内で導入された地域連携ICカード



八戸圏域MaaS（乗り放題乗車券、バスパック）



データ分析に係るダッシュボード

